繋ぐ。

−館山市富崎地区における最少地域コミュニティの提案−

Keywords
交通の利便性　コミュニティ　高齢者

DZ18198　三好　由佳

1.　はじめに

私たちは誰しも故郷や愛着のある土地をが持っているが、苦渋の決断で離れる時がくるかもしれない。研究敷地の千葉県館山市富崎地区でも多くの高齢者がそのような状況に立たされている。愛着のある土地を離れなければならない理由とはどのようなもので、離れずに生活していくにはどのような方法があるのだろうか。

2.　背景

公共交通機関がないまたは少ない地域では車や自転車、徒歩など自ら移動する手段を用意する必要があるが、高齢者の場合自ら移動する手段がなく生活に難を強いられる公共交通機関の弱体化の問題に直面している。この問題の多くは公共交通基盤が弱い地方で多く起こっている。そして公共交通機関の弱体化は買い物難民や病院難民など様々な問題を併発させる。また、公共交通機関の弱体化によって日常生活に難を強いられた人々は移住を余儀なくされ、愛着のある地域を離れることとなる。その為、交通問題は人口減少の要因であるとも考えられる。

現状の交通問題を解消すべく、2021 年 8 月 28 日から 9 月 9 日の期間中富崎地区内を周る 5 人乗りの小型バス通称「富崎ぐるっとバス」の実証実験[1)]が行われた。本実証実験では順路内であればどの場所でも自由に乗り降りできる条件で行われた。結果、利用した地域住人からは良い意見が多かった。しかし、バスを運用する側の地域住人は否定的な意見が多かった。以上より、富崎地区で移動手段を増やすという方法での問題解決は現状では難しいと考えられる。

2.1.　令和元年台風第15号災害

2019年9月に富崎地区を襲う大規模台風災害が発生した。この災害では、雨漏りを主とした被害に遭い災害当時はブルーシートが屋根にかけられた住宅（図3）が多く見られた。現在もブルーシートがかかった住宅が見られ、完全に復興したとは言い難い状況である。

図１　台風災害後の様子

表１より2019年度から2020年度までで世帯数が大幅に減少している。岡廻由貴子の「災害ボランティアを通じた関係人口の増加、定着の可能性について」より被害があった住宅278件のうち124件が1年間で解体又は被害がそのままになっている住宅であったことがわかる。以上より台風によって修復が難しい住宅被害が多く発生したことが起因、となり移住が促進したと考えられる。

	町丁字名	世帯数	人口					
			総数	男	女	15歳未満	15~64歳	65歳以上
2021年	富崎地区	416	726	331	395	31	235	460
	布良	204	355	158	197	15	122	218
	相浜	212	371	173	198	16	113	242
2020年	富崎地区	418	741	331	410	32	249	460
	布良	207	363	159	204	14	133	216
	相浜	211	378	172	206	18	116	244
2019年	富崎地区	439	797	357	440	32	281	484
	布良	222	399	176	223	15	151	233
	相浜	217	398	181	217	17	130	251

表１　富崎地区の世帯数と人口

3.　研究目的

交通問題がある地域において現在の生活の質を維持する為の最少限の生活基盤及び新たなコミュニティの提案を行う。

4.　対象敷地

4.1.　敷地概要

対象敷地は、千葉県館山市富崎地区とする。この地域は千葉県南部に位置し、明治時代から昭和時代中期まで漁港として発展した地域である。現在は布良、大神宮、相浜合わせて600世帯ほどの小さな集落となっている。海に近いが高低差が激しい地域であり、地域全域から海を見渡すことができる。休日になると釣りをしに関東圏に住む人々が多く集まる地域となっている。現状の富崎地区の地域内サービスの分布は図2のようになっている。

図 2　富崎地区内サービス分布図

富崎地区には、公民館、スーパー、郵便局が1つ飲食店がしか存在しない。

5.　計画概要

敷地面積：3031m^2

図 3　敷地概要

漁港に面している敷地であり、一方は漁港横の道路、もう一方は住宅地へとつながる道路に面している。漁港からの標高差は最高が10.5mあり、地震などの津波被害に比較的あいにくい立地であるため、仮の避難所としても運用できるのではと考えられる

5.1.　プログラム

本計画は、民間によって運営される宿泊施設兼コミュニティーセンターである。地域住人によって営業を行い、行政がテナントという形でコミュニティーセンターを運営する。

・ホテル（10客室）1000m^2
　・フロント
　・レストラン
　・入浴施設
・コミュニティーセンター2000m^2
　・診療所、医療相談所
　・日用品販売所
　・食堂
　・図書室（公共）
　・児童館（公共）
　・漁業組合

6.　設計計画

富崎地区は高低差がある土地に、主道や細い道が入り組み存在するのが特徴である。そしてその道と道の間に住宅が建ち、敷地境界を表す為やプライバシーを保つ為に塀、植物など様々な要素が表に現れる。そうして出来た景観は奥が見えるようで見えない不思議な景観となる。その景観をサンプリングし今回の設計計画に組み込む。設計計画には、5つの道をサンプリング（図4）し組み込んでいく。

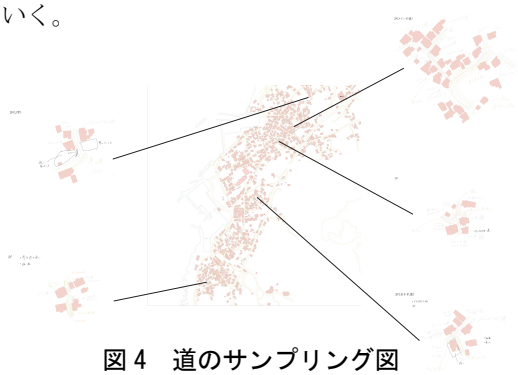


図 4　道のサンプリング図

サンプリングした道沿いの要素を高さ、素材別に分け表2のように設計に落とし込んだ。

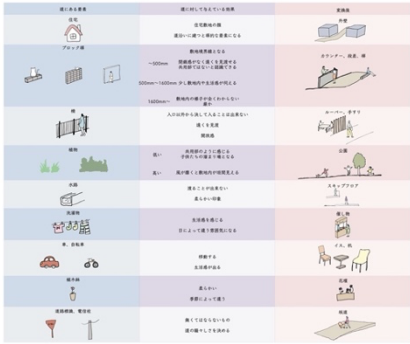


表 2　道沿いの要素素材別表

7.　終わりに

富崎地区以外にも交通問題に悩まされている地域は多く存在し、この提案が人口減少抑制の一歩となることを期待する。しかし、富崎地区のみが活動基盤となることで地域外との交流の減少や仲間意識の増大に影響を及ぼす可能性があるため、外部との関わり方の検討も進めていきたい。

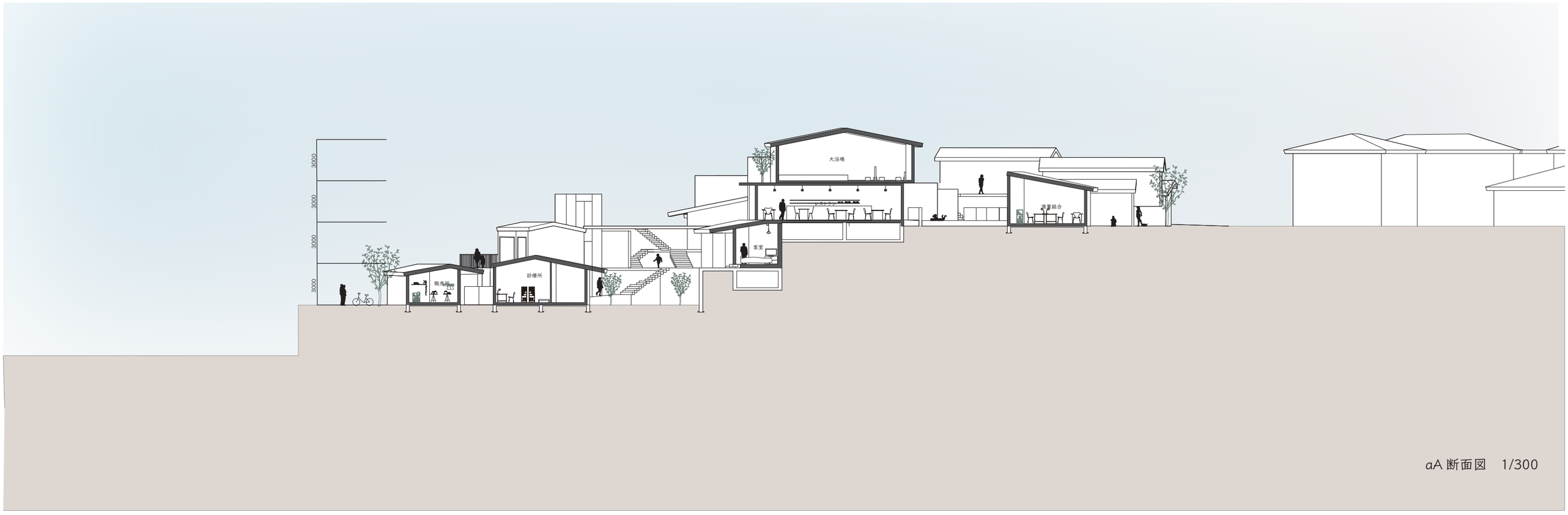
参考文献

1)　富崎地区スローモビリティ実証運行について
https://www.city.tateyama.chiba.jp/files/300362011.pdf

2)　館山市市役所　https://www.city.tateyama.chiba.jp

3)　「災害ボランティアを通じた関係人口の増加、定着の可能性について」芝浦工業大学建設工学専攻建築設計研究　岡廻由貴子
https://www.arch.shibaura-it.ac.jp/multidatabases/multidatabase_contents/download/1081/7d75f8ee71ef2cc193589bad0f1ed423/4382?col_no=5&frame_id=1419

3 階平面図　1/400



aA 断面図　1/300